

全和連活路開拓全国研修会記録

第一日目 05.10.16

- 1. 開会 黒谷和紙(協)理事長 福田 清
- 1. 会長挨拶 全和連会長 長田 昌久
- 1. 問題提起 高知県手すき和紙(協) 上田 剛司

1. 産地報告

【富山】

- ・需要会開拓のためにやっていること
紙のない地域、北海道で展示会
五箇山和紙まつり
地元産楮栽培
- ・万博の影響で観光客が減った。

【山梨】

- ・書道紙の生産・・・手漉き 9 軒、機械抄き 3 軒
- ・従業員の賃金をずっと据え置いていたので賃上げをし、その分料金の値上げをお願いした。
- ・エコ紙の評判がいい。
- ・若手が専業主になっている。

【岐阜】

- ・軒数が減って苦しい。
- ・紙が売れない。
- ・若手はお得意さんが決まってかないかが問題。
- ・機械抄きも売れない。
- ・どうしたら売れるかが問題。
- ・紙漉きをやめる気はない。

【奈良】

- ・漉いているのは 8 軒・・・表装用の裏打紙、美栖紙、掛軸用
- ・床の間が減って大きな打撃を受けている。これに代わるものをどう作るかが問題。
壁紙に転換できればと思っているが。
- ・自分一代で終わりにしようと考えている人もいる。

【鳥取】

- ・県が和紙フェアなどでPR（大阪・海外）してくれているが、雨のちどしゃぶりの状態。
- ・今までの紙以外の新しい紙でどう進出するか。

【長野】

- ・障子紙一本で生産している。
- ・10軒に減って、2人が74歳で、70歳代の人が4人。今後が心配。
- ・80%が地元産楮であとは高知から。
- ・いろいろ開発しているが、完成品に結びつかない。

【徳島】

- ・長年漉いている紙以外では無理がある。
- ・研修会を23年間続けている。
- ・大阪のデザイナーの指導で、開発、商品開発をやっている。

【兵庫】

- ・金箔打原紙。
- ・減少の一途で後継者もいない。

【愛媛】

- ・後継者育成が中途半端。
- ・市に協力をしてもらいたい。

【京都】

- ・どこでも厳しいので、我々だけが悲観することはない。一生懸命努力する以外ない。
- ・8名が青年部で、技術者になって全国の注文をこなしている。
- ・本物志向で行きたい。
- ・すべてソーダ灰、地元産楮、天日板干し。これをくずさないでやっていきたい。
- ・和紙工芸センターがつくれ、紙漉き研修会ができるようになった。
- ・伝統的な紙をつくりながら、産業として生き延びなければならない。

【越前】

- ・同じ悩みをかかえている。合併で大きな名前“越前市”をもらい、和紙組合が市から指定管理者に指定された。産地全体が売れ行きが悪いのにそんなものを受けない方がいいとの反対意見もあったが、うまくやっていけば財産になると思い受けた。

分科会中間報告要旨

分科会は活路開拓調査報告書の具体化のために開かれた。参加者が討論に参加しやすくするため具体的なテーマで3分科会に分けたが、最終目標は和紙の販売促進です。

【第1分科会】座長：上田 剛司

「大都市における展示会を行うことについて」

展示会を行う場合、販売を中心にせず和紙のPR、和紙の使い方の教室など和紙全体の宣伝啓蒙を中心に置くべきだとの意見。

販売については、その地元の流通の方々の相互理解が必要。

実行する場合には実行委員会方式で。

発言の中から

1. 価格について

和紙会館 1.5倍? 2倍

問屋販売 和紙のロス、都会での経費などで 2倍以上

2. 販売店とは今回のように意見交換が必要。

【第2分科会】座長：佐野 富人

「和紙業界の現状をどうするか。」

行政から大部分の産地が協力を得ておりお互いの経験が交流された。

賛助会員については、和紙業界の力をつけるために協力を頂くのは必要だが、どの範囲まで協力を頂くのか等、今後検討する必要がある。

発言の中から

1. 商品開発でデザイナーを頼むと補助金はデザイナーに全て行ってしまい、

製造元には、何も残らないで終わってしまう

2. 吉野ブランドを作る事業で、2,500万円があったがデザイナーに半分支払い、

後は東京でイベントを行った。

材料代は頂いたが、事業所毎に負担があった。商品は売れなかった。

デザイナーは絵を描くだけで売れても売れなくても関係ないのがおかしい。

【第3分科会】座長：長谷川 聡

「イメージを高めるために」

外国産と区別するための国産シールをすることについては、多数の方々から賛意が示されたが内容表示については、様々な意見が出されました。

発言の中から

問屋との関係はどうか

表示の管理責任をどうするか

内容表示は必要ない。まじめに良いものを漉いていけば使う人が解ってくれる。

画仙紙は製造年月日の表示が必要。

社会の要望は表示を求めている。短期的にマイナスの面があるが、長期的には業界にとってプラスではないか。

【まとめ】

今まで、言いつ放し、聞きっぱなしであったが、切羽詰まった現状打開のため、今回はみんなでまとまる方向が出れば必要を感じている人がまず集まり道を切り開いていこうとの委員会方式を示しながら分科会の討論が行われた。

第1分科会では

和紙のPRのための展示会

第2分科会では

自分達だけでなく周辺の人達の力を借りて苦境を打開する賛助会をつくるために具体的な検討が必要。

第3分科会では

外国産と区別する意味でのシールづくりについて大方の同意がみられた。勿論まだまだ討論不足で深い合意までにはいたっていないが状況を変えるためにも3点については具体的な検討委員会がつけられるのが望ましい。

尚、今回の研修会について以下の発言が寄せられた。

? 今までの大会は表彰とか儀式だけだったが、今度の研修会は良かった。

身近にいるんな意見が聞けて勉強になった。

? この大会はこの形で続けるのですか

こんな会なら周りの人も誘ってこの会に参加したい。

作り手だけしか今まで来ていなかったが、今回は売る人も来て頂いた。

1. 分科会の発言から

【第一分科会】

- ・和紙の販売は8割が流通経由。
- ・産地では、自分たちの紙が市場ではおよそ1.5倍～2.5倍の価格で売られていると認識している。やむを得ないと思う。
- ・50%～60%増しで売っている。(流通)
- ・価格は産地で決めてほしい。(流通)
- ・全国どこでも同じ価格で販売できるようにしてほしい。(流通)
- ・展示会では2倍前後で売っている。
- ・産地では安く買えるという利点を残したい。
- ・展示会の価格と産地で売っている価格は一致させる必要がある。
- ・全国規模での産地展示会をやるとしたら、販売より和紙のPRに重点をおきたい。
- ・展示会では和紙だけではなく異業種との交流。
- ・消費者に使い方を提案する。
- ・どこの店で売っているかなどの情報を把握して、消費者に紹介できるようにする。

【第二分科会】

行政から受けた協力の内容

- ・年20万円。卒業証書。コテ代。
- ・常に行政に話しをもっていく努力をしている。
- ・全国中央会の援助。資金面が苦しい。
- ・商品開発は、デザイナーに補助金が全部おちてしまう。
- ・去年から取り組んだ。ブランド物を開発。2,500万円補助もデザイナーの方に半分いってしまう。出来た作品を東京で展示。材料代、加工賃、交通費がかかる。
- ・補助金をもらって、無報酬で働いて赤字。補助金をくれるなら、商品を買って欲しいと言っている。
- ・町から毎年15万円。正式な組合は税金を大分とられる。任意の組合にした。
- ・デザインは最低でも3年計画が必要。1年目は試作品で終わってしまう。
- ・県産品の助成は組織だったものにはあるが、個人にはない。全和連の裏付けがあるといい。

賛助会員制について

- ・製造業者とのコミュニケーションがない。そういうところにこそ補助金があればいい。
- ・和紙の啓蒙のために、本物を学生さんに見せたりしている。
- ・賛助会イコールアナログの世界に戻ろうとしている。
- ・和紙風のものが見境いがつかなくなっているのが重要では？

- ・賛助会の性格がはっきりしないのでは？
- ・こういう提案は遅いくらい。
- ・会費 1 万円は、半分は経費。
- ・対象は、野球・相撲ファンと同じではだめ。
- ・対象は、川下もあれば川上もある。全部を包括するマネージメントを。層を厚くすると需要増となる。
- ・推薦したらそのまま会員になれるのか、もっとつめて話し合う必要がある。
- ・お金だけの人でもいい。
- ・基本的には早くやった方がいい。

国会議員の会の設立

- ・うちわ、扇子の紙を扱っている伝統産業が、京都市から N P O を作りなさい、といわれた。
- ・6~7 年前、ノリウツギを北海道から送ってもらっていたのが駄目になったときに、議員の働きかけで助かったことがある。

インターネットの活用

- ・全和連のアクセスは年々増えている。
- ・組合でも個人でもよいので、積極的に活用する。

その他

- ・手漉き和紙と機械抄きが、区別されずに売られている。ビールでも発泡酒とビールは区別されている。
- ・どういう原料で、どういうふうになられているのか、消費者にわかるようにできないものか。その働きかけをしてもよいのでは？

【第三分科会】

- ・消費者のイメージに合わせる必要がある。あまりきれいに漉くと和紙らしさが無い。
- ・和紙の機能性など、使う人に情報を伝える努力が弱い。
- ・「この紙は何に使うのか」という質問が多い。ビデオを見てもらってから説明する。
- ・価格が中国産より高くなったので、高級感が出てイメージがあがった。
- ・紙は奥が深い。やはり手で漉いたものの方がいい。手には技が入っている。
- ・産地ごとに違うのが手漉き和紙だ。統一してはだめだし、することは難しい。
- ・白い和紙から、だんだん色の和紙が増えてきた。
- ・伝統工芸指定の伝産のシールを使っている。シールの条件としては、原料、伝統的な竹箆を使っている、など。一枚 3 円なので、一束に貼っている。
- ・シールを作る場合、どこで審査と管理をするかが問題。
- ・シールの表記に原料まで入れることには抵抗感がある。
- ・製造日は表示した方がいい。

- ・産地ラベルを作っているが、問屋は貼ったり、貼らなかつたり。相手によっては必要だ。
- ・表記する内容による。国産と外国産を区別する表記ならいい。
- ・まじめに漉いていれば、使ってもらえばわかってもらえる。
- ・画仙紙は書けばわかる。
- ・注文で紙を漉いている。色々な紙があつていい。原料も色々あつていい。シールは必要ないと思う。統制するのは良くない。ただし、外国産で似たような紙があるので、国産の表示だけはした方がいい。
- ・店に来た人から、この紙は板干しか、何でできているのか、必ず聞かれる。
- ・社会的な要望として、表示は求められている。短期的に見てマイナス面があつても、長期的に考えた場合、表示をしないことはかえつてマイナスになる。どこでそれを行うかが問題。

第二日目 05.10.17

1. 分科会報告 各座長より報告

1. 講演 伝統工芸の今後について
京都伝統工芸産業支援センター 理事長 新谷 秀一

1. 原料事情について
サンワールド(株) 酒井 忠雄
高知県原料生産協同組合

1. 全体会議

- ・和紙の名前を、洋紙関係者が商品名に使っている。少し意見を言ったらどうか。
- ・売る場合、いろいろ質問を受けるデータを作ってもらえないか。リピートの注文をしても同じ寸法のものでもらえないことがある。
- ・5mm～1cm位は、漉く人によって違ってしまう。
- ・プレスを急激にかけると伸びる。ねかせて次の日にゆっくりプレスすると違う。
- ・つくった紙が、どんな名前でもどこに行っているか、値段はどうか、などが産地ではわからない。問屋が独自に決めている。
- ・安い紙は、国産原料を使わないので隠してしまう。もっと長所を明記すべきではないか。
- ・製造原価の標準をつくり、専門家にたのんでAクラス、Bクラスと分ければいい。
- ・機械と手漉きくらいに分け、国産としたら。
- ・書道に代わる用途が見つからない。産地名をどんどん発信する必要がある。
- ・手漉きの何が素晴らしいか、何がいいのか説明する必要がある。新しい機能が生かされれば、おもしろい展開ができる。こんなに素晴らしいものだという力強い言葉をききたい。
- ・表示はサービスの一環だが、大きな仕事だ。内容を把握するのは大変。どこで認定するのかという問題もある。全和連としては、まず国産かどうかから始めたらどうだろう。
- ・酒は平成元年から始めている。それぞれの所で基準を設けて表示すると、消費者は混乱する。ぜひ、全和連として進めて行きたい。
- ・自分のために他の人と力を併せるという立場で、全和連としてまとめて行動すべきだ。まだ和紙をあまり使っていない人も、使いたがっていることが報告書で明らかになった。シールについては、すべての分野で国産の価値が上がっている。外国産が国産で

あるかのように売られている分、チャンスと思う。

- ・来年もこのような研修会をやってもらいたい。
- ・今回の研修会は、非常に感動した。長いこと会議に参加してきたが、ようやく和紙の夜明けを迎えたようだ。

長田会長より、来年はどのような形式にするかとの問いかけがあり、反対者なしで、来年も研修会を開くことに決定。

1 . 閉会 富山県和紙協同組合理事長 吉田 泰樹

全和連活路開拓全国研修会参加者アンケート集計結果

集計枚数 55枚

2005年10月17日

1. 今までの全国大会と今回の研修会では、どちらが参加しやすいですか。

1. 今までの全国大会	2
2. 今回の研修会	36
3. どちらとも言えない	6
4. 初参加	9
5. 回答なし	3

〔意見〕

- ・ 大きい都市での開催メリットは交通のアクセスが良いことです。そういう場では内容（研修の中身のみ）に絞っていただく事は効果的です。しかし地方で開催する時には「めったに行かないから」という理由で参加することもあります。「きっちり研修」の時には大都市で・・・地方では見学や観光的なものも入れていただけるといいと思います。
- ・ 初めての参加で比較できないが今回の研修会の様な形には賛成。
- ・ 今までの大会では、議員の方の挨拶など必要性を感じていなかったのも、必要であれば司会者からの挨拶のみの紹介で十分と考えていました。

2. 研修会の内容について

1) どのような報告が参考になりましたか

伝統工芸について	13
1. 問屋・販売店について	26
2. 原料商の報告	14
3. その他	10

- ・ 品質表示について
- ・ 分科会での報告が一番よかった。講演よりは意見交換のほうが勉強になります。

2) 研修会の進め方は

1. 分科会方式が良い	8
2. 全体会議が良い	4
3. 分科会と全体会議の組み合わせが良い	39

- ・ もっと小さな単位で話す時間を作る

- ・ 20人前後で机を囲んだ方が話しやすい
- ・ 分科会のみだと1つの分科会しか参加できない

3. 研修会全体についての感想

- ・ それぞれの産地の状況、販売ルート等の様子がわかって有意義であった。全和連の事をもう少し勉強し、今後の商売に生かして行きたい。
- ・ 漉き手と問屋が話し合うことがとてもいいと思います。
- ・ 従来の全体会議は各産地の情報交換の場であったが、今回は研修会の意識を持って参加したのが新たに新鮮な感覚を得た。
- ・ 消費者の方々から見ても、不安を解消する意味においても、国産であるか、外国産であるか、手漉き、機械抄きの表示は必ずすべき事だと思います。小売店に直売する生産者の方も出来る範囲の説明を小売店側と話し合ってください。板干し、ステンレス板とか、寒漉きの紙であるとか
- ・ 今回が初参加で、私自身の漉き手としての経験も浅く、皆様の意見を聞くことができ大変勉強になりました。また、他の産地やベテランの方々の悩みや私自身が思っている悩みが多く、同じ事を感じていることがわかり安心しました。
- ・ 初めての参加でしたが勉強になりました(2名)
- ・ 販売店との協力関係、和紙の価格、賛助会員制等今後も様々な議論を展開させていく必要があると思います。

伝統工芸の講演について

「伝統工芸の今後」というテーマに期待を持っていましたが「学校」の宣伝的で「今後」ではなかったと残念でした。紙だけではなく、伝統工芸に携わった方々が沢山いて、そういった人の考え方や伝統工芸というものに対する価値観などその道のスペシャリスト、大学の先生に聞きたいと思いました。

研修会について

それぞれの分科会に立場の違う(メーカーと問屋、小売店)方々が混在参加していますが、なかなか難しいと思いました。司会者がしゃべりすぎです。流れをうまくつくるのが司会者です。高いところに上がってください、会場が見えてないです。

- ・ 今までと違い、個々に意見を聞き、まとめた点では非常に効果がある。役員のご苦労に敬意を表します。
- ・ 内容充実でよかったが少しせわしなかったかな？
- ・ 分科会討議は内容にもよるが、今回の場合2時間は少し短い気がした。(第三分科会に参加)生産者だけではなく消費者側の意見も必要で信頼のおける第三者的立場の意見も聞いてみるべきだと思う。

- ・ 作っている方、問屋、販売それぞれの意見を聞くことができて良かった。しかし、それがそれぞれに活かせるかが問題では。
- ・ 今回参加された和紙を漉かれている方々の作られる紙は一つとして同じものはないと思います。同じ地区の方でも漉かれている紙は違うと思いますのでまとめるとか方向づけもなかなか難しいと感じました。大変良い勉強をさせていただきました。
- ・ 分科会は人数が少ない分皆に意見がいきわたり良かったと思う。しかし、参加者に若手が少なかったのが残念です。
- ・ 分科会の時間が長い方が良い。
- ・ 分科会に参加してみて製造側よりも、問屋などの中間業者が（エンドユーザーの手元に渡るまでの間にある業者）和紙の価格、イメージを作り上げてしまっていることに驚きました。昔は中間業者の方に販売を依存することが多かったため、頼らざるをえない状況だったと思いますが、時代も変わりインターネットによる情報公開が一般的となり世間一般が不透明なものに対して疑問を持つようになりました。世界に誇れる文化として不信感のないまっすぐしたものを作っていきたいと思います。
- ・ 問屋、販売店の分科会のみに参加しましたが大いに参考になりました。無理に統一しなくても全体の流れを知ることができありがたいことでした。
- ・ こういう討論会には初めて参加しました。反省かつ大変勉強になりました。和紙の作られます底辺の広がりを期待しつつ努力もしたい。
- ・ 良い研修会と思うが座長が大変だ。
- ・ 参加者が前向きに意見を言うことができて意義があったと思います。
- ・ 真剣に討議され、販売店関係の参加で熱のこもった会議になってよかった。
- ・ 今まで以上に突っ込んだ討論の場ができよかったと思う。
- ・ 全体参加のできる方式を考えたい。
- ・ 今年度の会合は大変良かった。
- ・ 全国的な集いで意見を集約して実施することは困難と考える。「言うだけで実施が伴わない」 仕方ない 少しでも実施できる方策を探る。「原料」「販売」の業者からの話は良かった。
- ・ 分科会で皆さんの意見を聞かせてもらって大変勉強になりました。あれ位の人数の方が、私も含めて皆さん意見を言いやすかったみたいです。何年も前の大会から出席していませんが、以前より前に進んでいこうと言う感じを受けました。
- ・ 活路開拓をさらに進めていきたい。
- ・ 全体会議を短くして分科会の時間を持った方が良い。
- ・ 以前一度出席した。全和連の大会の記憶はあまりないのですが、今回の研修

会で話し合われたことについてはこれから先よく考えなければならないことであり、印象深い研修会になりました。

- ・ 具体的なテーマだったので討論に参加しやすかった。
- ・ テーマを整理して話の進行が全員に見えるようになれば良いが。

4. 次回の研修会に期待する事があればお書きください

- ・ 今回の研修会はスケジュールが非常にタイトであると思う。産地持ち回りの大会開催に対して、やはりその地域にふれたいという思いから、もう少し柔らかな時間があればと思います。

原料に対して = 国産の原料がいいものだとは勿論分かっています。(本来の「和紙」というものが国産原料で昔からの製法で手漉きということ)しかし、紙の用途によっては、価格的に高価な国産原料より、リーズナブルな外国産原料を使用する紙もあります。私自身新米ですが外国産に対するイメージの悪さが何よりも先に来てしまい、(主に古株のかたがたの固定観念によるものが大きいと思う)どうしても外国産原料を使った紙であると胸を張って言えない。

- ・ 書道家をよんでもらいたい。
- ・ 今回の研修会全体の意見を次回の研修会までに文書にして報告して欲しい。
- ・ 時間の配分 = 長時間であるので短縮して欲しい。今後につなげるため継続研究会を求む。
- ・ 是非組合加盟の事業所のなかでも若手の方々に多く参加していただけるよう推進していただきたいと思います。
- ・ 問題点を絞り込んで協議し、具体的な成果につなげて欲しい。
- ・ 組合員の表彰はあっても良いのではないかと思う。
- ・ 次回も京都または東京で催されたら良いと思います。
- ・ 「表示」の問題について機械抄き手漉きの区分表示をすることは、賛助会員、協賛事業スポンサーなどで具合が悪いのではないか。
- ・ デザイナーや美大で和紙に興味を持っている先生の話も聞きたい。
- ・ 今後毎回京都での開催を希望します。(2名)
- ・ 前進、々、々、また前進。
- ・ 分科会も3部会あったが他の部会への参加もしてみたかった。
- ・ 全和連がしっかりと取りまとめをし、各組合、会員に伝わるようお願いします。
- ・ 同じ事を繰り返すことで理解が深まると思います。
- ・ 大変盛り上がったが協議内容を搾って具体的にテーマを決め早めに各支部に伝達意見調整も必要か。

- ・ 各産地の技術情報交換を引き続きして欲しい。
 会員の生産原価意識を育てるようにして欲しい(例、障子、手漉き楮紙(未晒)染紙などの生産原価表を作成して提示して検討資料とする。
- ・ 今回初参加で分かりませんが、全国和紙連合会の団体としての大きなイベントをした方が良いのではないか。
- ・ もう少しゆとりのあるスケジュールだといいと思います。課題が多いのですが…。
- ・ 面倒でもアンケート結果、研修報告をまとめていただき、欠席の方たちにもご配布いただければ以後の参加率も上がるし、良いまとめもできると思う。
- ・ 今回の方式は良いが、今後、地域ブロックの受け皿があるか心配。いつまでも京都というわけにはいかないと思います。
- ・ 組合のある産地は「伝産」の指定がある場合が多いが、個人あるいはその土地で一戸しか生産者がいない場合などの、公的支援のあり方などを考えていただければと思います。
- ・ 私だけが知らないのかもしれませんが、参加者の漉かれている切り落としで良いから持ってきて頂くとこの方がこんな紙を漉かれていると分かりますし、発表されても話を理解しやすいと思います。
 今回は第一、第二、第三分科会と一日だけでしたが次回はそれぞれの人を入れ替えてパート2の分科会として最初に参加した分科会とは違う分科会に参加して他の方々の意見などを聞かせていただけるとありがたいと思いました。
- ・ 資料と一緒に本入れないでください。遠くて重い。